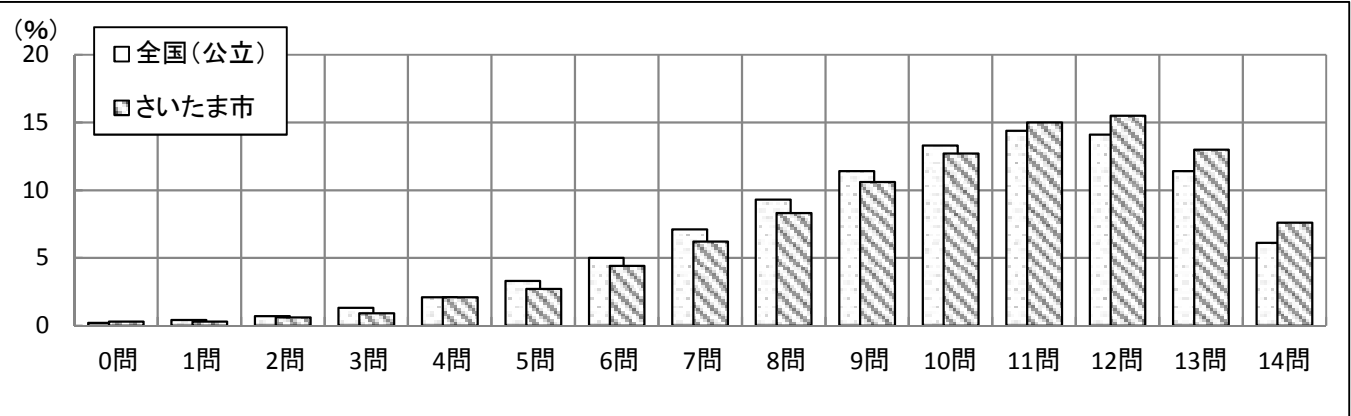


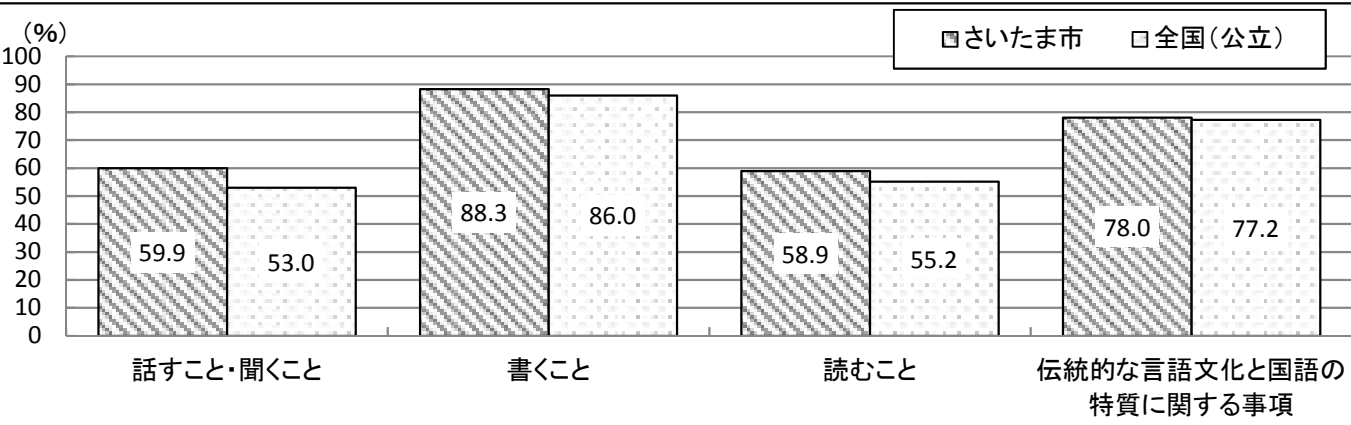
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
72.1	70.0

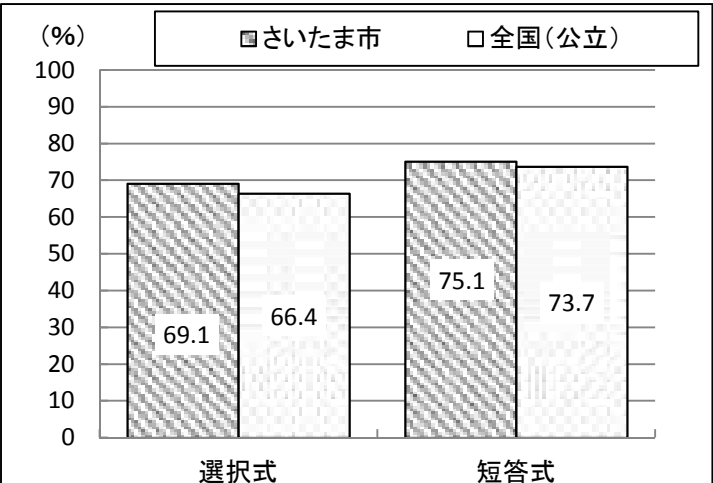
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域等別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等・学年				問題形式	正答率(%)	
		話すこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項		市	全国
1ー1	漢字を読む（友人を家に招く）				5・6年	短答式	98.0	97.5
1ー2	漢字を読む（自分の信念をつらぬく）				5・6年	短答式	97.2	96.0
1ー3	漢字を読む（全員がすぐに承知した）				5・6年	短答式	93.3	92.5
1二1	漢字を書く（シャワーをあびる）				5・6年	短答式	60.9	58.4
1二2	漢字を書く（鳥のすを観察する）				5・6年	短答式	76.6	76.5
1二3	漢字を書く（びょういんに行く）				5・6年	短答式	76.0	74.9
2ー	文の主語として適切なものを選択する				1・2年	選択式	50.0	53.1
2二	文の型として適切なものを選択する				3・4年	選択式	73.5	71.7
3	聞き方の説明として適切なものを選択する	5・6年				選択式	59.9	53.0
4	説明の文章の書き方の工夫として適切なものを選択する		3・4年			選択式	88.3	86.0
5ー	コラムの中で筆者の読書体験が書いてあるまとまりを選択する			5・6年		選択式	65.1	59.5
5二	コラムの中で筆者が引用している言葉を書き抜く			5・6年		短答式	23.6	19.8
6	登場人物の関係についての説明として適切なものを選択する			5・6年		選択式	70.6	67.5
7	応募のきまりを守っていないものを選択する			5・6年	3・4年	選択式	76.3	73.9

※ 全国の前答率は、公立学校の結果です。
※ 学年はその内容を学習する学年です。
※ 網掛けは、さいたま市の平均前答率が全国を下回っている設問です。

◇:成果[対象となる設問] ◆:課題[対象となる設問]

【結果概要】

- ◇基本的な漢字の読みについては、相当数の児童ができています。[A1ー1～3]
- ◇説明する文章の書き方の工夫として、具体的な事例を挙げて書くことについては、相当数の児童ができています。[A4]
- ◆文の主語として適切なものを選択することに課題がある。[A2ー]
- ◆話の内容に対する聞き方を工夫することに課題がある。[A3]
- ◆新聞のコラムを読んで、筆者が引用している言葉を書き抜くことに課題がみられる。[A5二]

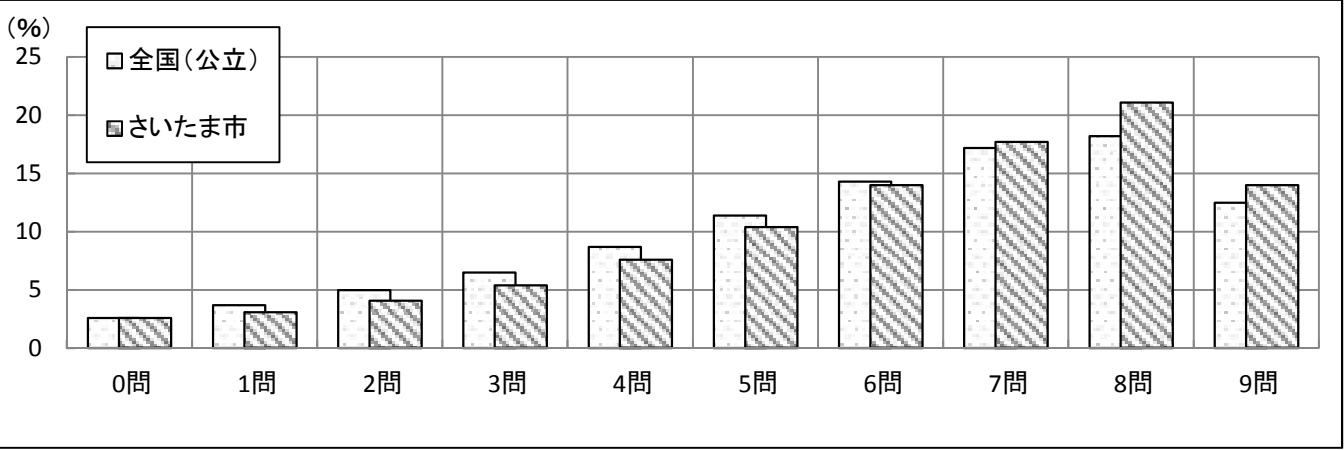
【指導のポイント】

- 主語と述語との照応関係が大切であることについて、文や文章を理解したり表現したりするときに強く意識できるように指導することが必要である。
- 話を聞くことについては、話すことと同時に指導するものであり、低学年の段階から系統的・累積的な指導を行うことが大切である。特に、低学年では「大事なことを落とさないように聞くこと」を意識した指導をしていくことが大切である。
- 引用については、目的によって、どの文献のどこをどの程度引用するかが決まることから、「説得力を高めたい」などの目的意識をもたせたり、必要性を十分に感じることができるよう言語活動を位置付けたりして、課題解決の場面において指導することが大切である。

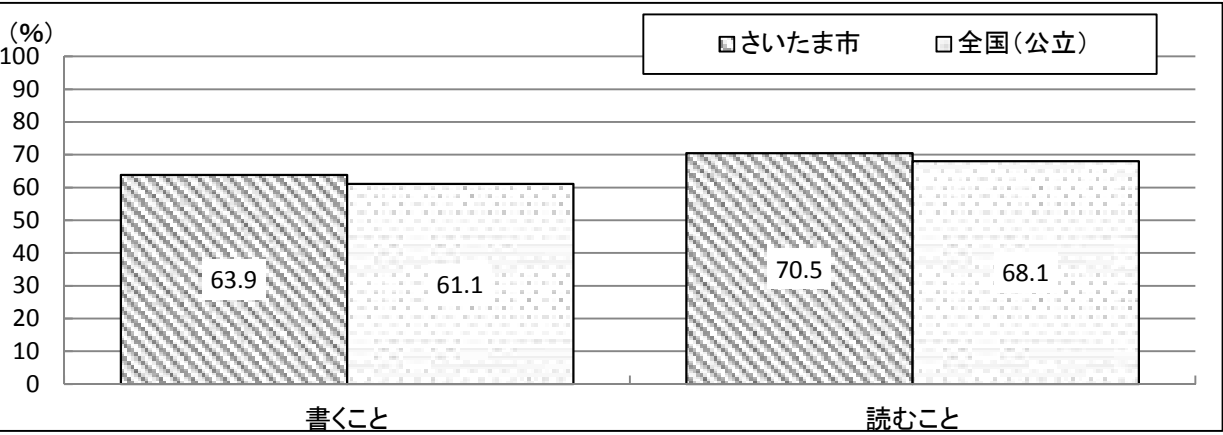
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
68.1	65.4

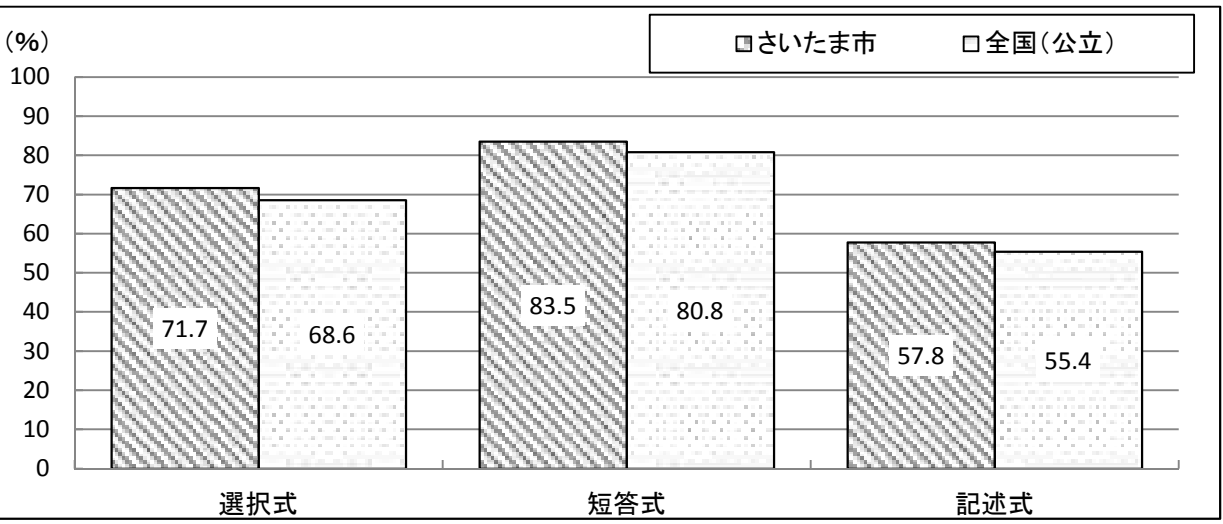
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域等・学年				問題形式		正答率(%)	
		聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市	全国	市	全国
1ー	新聞の割り付けとして適切なものを選択する		5・6年			選択式		77.4	74.6
1二	見出しの表現の工夫についての説明として適切なものを選択する		5・6年			選択式		74.7	70.8
1三	【中田とよさんへのインタビューの様子】の内容をまとめて書く		5・6年			記述式		37.8	34.7
2ーア	【ア】に入る言葉の意味として適切な内容を書き抜く			3・4年		短答式		79.0	75.5
2ーイ	【イ】に入る言葉として適切な内容を書き抜く			3・4年		短答式		88.0	86.0
2二	【文章】の要旨をまとめて書く		5・6年	5・6年		記述式		80.8	78.4
2三	楽器の分担の決め方について、【楽器の分担図】を基にして書く		5・6年	5・6年		記述式		43.8	41.6
3ー	〈絵3〉の場面が始まるまとまりとして適切なものを選択する			3・4年		選択式		62.9	60.4
3二	声に出して読むときの工夫とその理由を書く		5・6年	3・4年		記述式		68.7	66.6

※ 全国の前答率は、公立学校の結果です。
※ 学年はその内容を学習する学年です。

◇：成果〔対象となる設問〕 ◆：課題〔対象となる設問〕

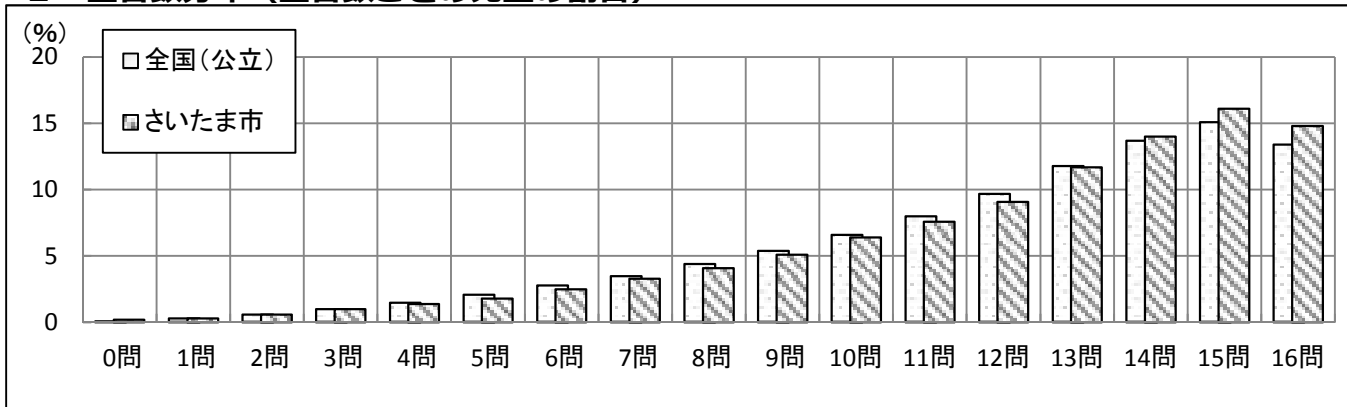
【結果概要】

- ◇ 目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえることは、相当数の児童ができています。〔B2二〕
- ◆ 学校新聞を書く場面において、目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事を書くことに課題がある。〔B1三〕
- ◆ 図やグラフなどを読み、自分の考えを伝えるために効果的に用いたり、文章と図やグラフなどを関連付けて、自分の考えを書いたりすることに課題がある。〔B2三〕
- 【指導のポイント】
- 読み手の伝えたいことの中心を明確にした上で、自分で調べた内容や、関係者に取材した事柄の中から取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように、事実と感想、意見などを区別できるよう指導することが大切である。また、目的や意図に応じ、伝えたい内容が十分に伝わるように整理して書くことができるように指導することが大切である。
- 図表やグラフ、絵、写真などからどのようなことを読み取ることができるのか、算数科等での学習内容も踏まえて指導することが大切である。その際、文章と図表やグラフなどとの関係やその効果をとらえることができるようにすることが大切である。

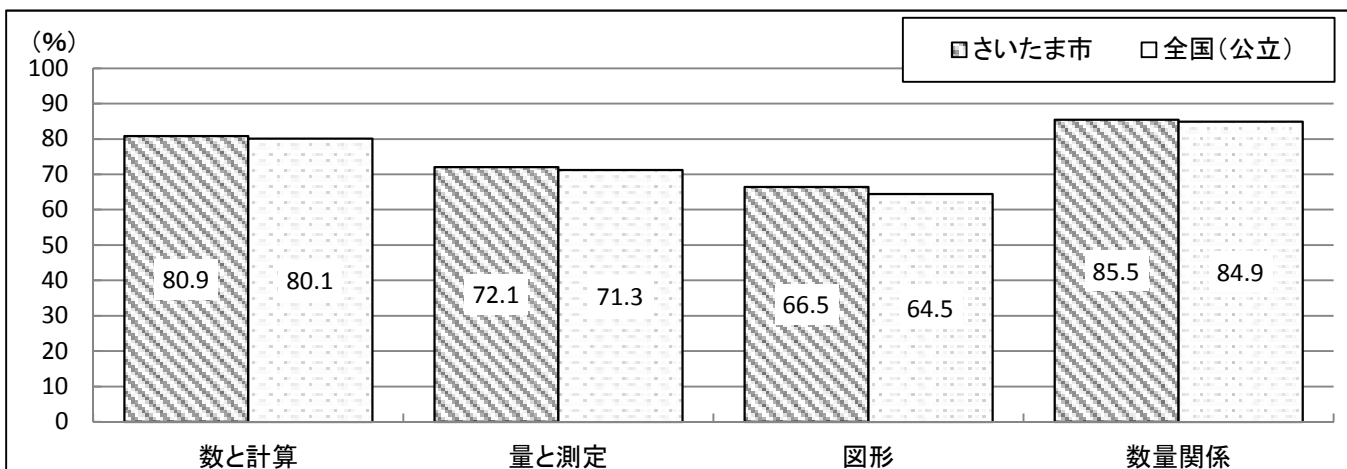
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
76.2	75.2

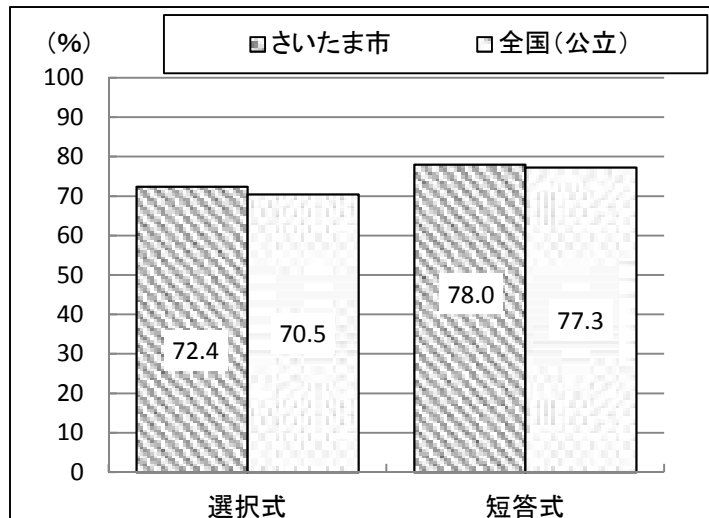
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域・学年				問題形式		正答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	市	全国	市	全国
1(1)	8.9－0.78の差の概算の結果として、ふさわしい数値を選ぶ	4年				選択式		73.5	71.0
1(2)	5.21＋0.7は0.01が何個集まった数かを表すための式として、ふさわしい数値の組み合わせを書く	4年				短答式		76.5	74.3
1(3)	小数の加法の結果を、減法を用いて確かめるとき、当てはまる数値の組み合わせを書く	2～4年				短答式		86.6	82.0
2(1)	28＋72を計算する	2年				短答式		97.9	98.2
2(2)	6.79－0.8を計算する	4年				短答式		68.1	69.5
2(3)	5／9－1／4を計算する	5年				短答式		81.0	81.4
2(4)	5／6÷7を計算する	5年				短答式		83.0	84.2
3	午後3時10分までに図書館に着くために、所要時間の5分と20分を基に、家を出発する時刻を求める		3年			短答式		76.6	74.8
4(1)	90°、180°、270°、360°を基準として角の大きさを見当付けたものから、正しいものを選ぶ		4年			選択式		81.1	81.3
4(2)	分度器の目盛りを読み、180°より大きい角の大きさを求める		4年			短答式		58.7	58.0
5(1)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形が二等辺三角形になる理由として、最もふさわしい円の特徴を選ぶ			3年		選択式		53.9	50.6
5(2)	円の中心と円周上の二点を頂点とする三角形の、角の大きさを求める			3年		短答式		63.7	64.5
6(1)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面の長方形の縦と横の辺の長さを書く			2,4,5年		短答式		78.4	75.4
6(2)	作成途中の直方体の展開図について、残りの一つの面を付けてかく辺を選ぶ			2年4年		選択式		69.8	67.6
7	ハンカチを5日間持ってきた人数が、学年全体の人数の半分より少ない学年は、4年生だけであることを示しているグラフを選ぶ				3年5年	選択式		83.8	81.8
8	○を並べた図を基に式を読み、数に対応する○を黒く塗る				3年4年	短答式		87.1	88.1

※ 全国の上答率は、公立学校の結果です。
 ※ 学年はその内容を学習する学年です。
 ※ 網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◇：成果〔対象となる設問〕 ◆：課題〔対象となる設問〕

【結果概要】

◇小数の加法の結果を、減法を用いて確かめることは相当数の児童ができている。〔A1(3)〕

◇グラフに表されている事柄を読むことは、相当数の児童ができている。〔A7〕

◆小数点をそろえて位ごとに計算することに課題がある。〔A2(2)〕

◆分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることに課題がある。〔A4(2)〕

◆示された三角形が二等辺三角形になる根拠を円の性質と関連付けて判断することや、円の性質から三角形の等辺をとらえ、二等辺三角形の性質から底角の大きさを求めることに課題がある。〔A5(1)(2)〕

【指導のポイント】

○小数の加法や減法の筆算の仕方において、位をそろえて計算することの理解を確実にすることが大切である。また、繰り返しの学習で、確実に身に付けられるようにすることが大切である。

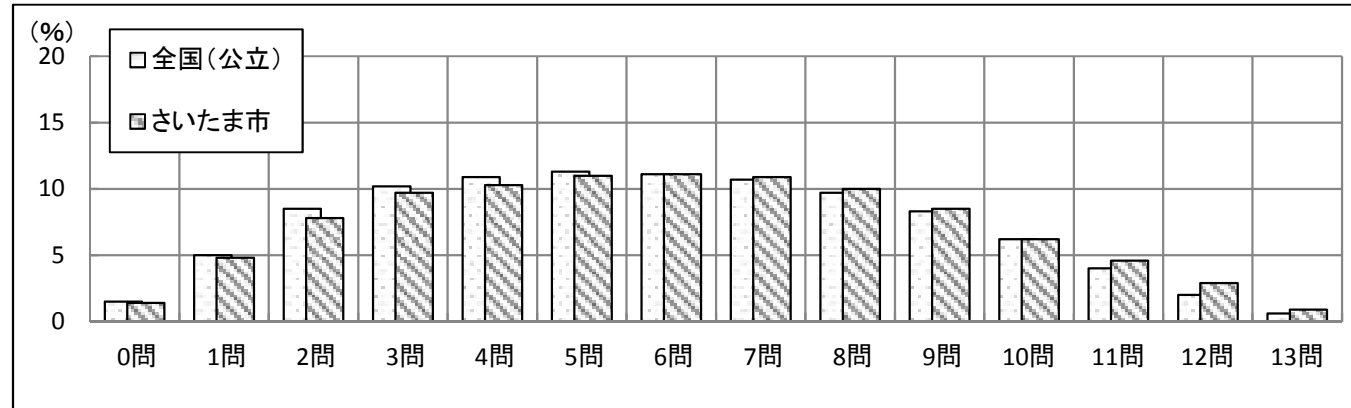
○180°よりも大きな角を求めるために、補角を用いた測定方法を判断する活動を取り入れるなどして、確実に角の大きさを測定できるようにすることが大切である。

○図形の構成を、図形の特徴と関連付けてとらえられるようにするとともに、作図の際は、図形を構成する要素に着目して図形の性質の理解を深められるようにすることが大切である。

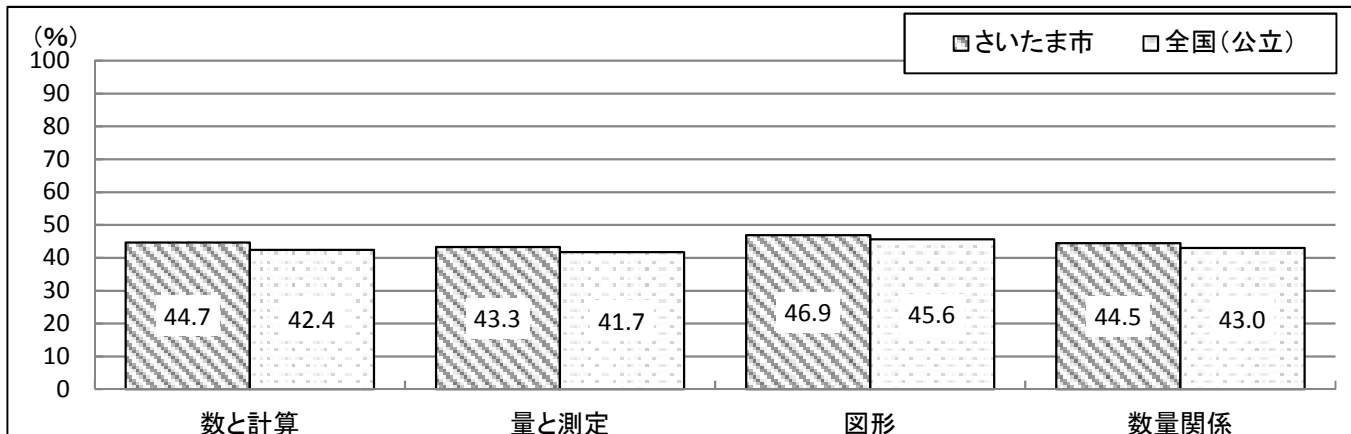
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
46.5	45.0

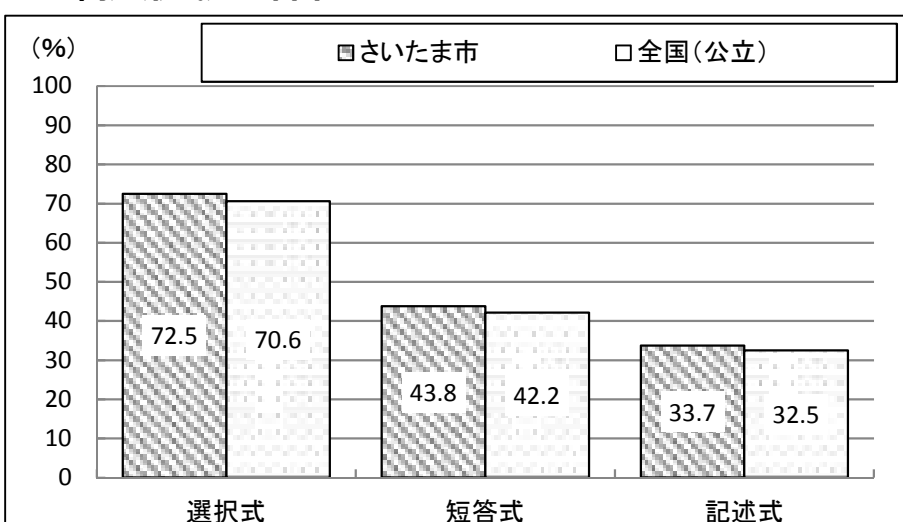
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

※全国の前答率は、公立学校の結果です。

設問番号	設問の概要	学習指導要領の領域・学年				問題形式		正答率(%)	
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	問題形式		市	全国
1(1)	平行四辺形を構成することができる、四つの辺の組み合わせを選ぶ			4年		選択式		95.7	95.2
1(2)	作図に用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ			4年		選択式		54.8	54.6
1(3)	二組の道のりが、それぞれ等しくなることを書く			4年		記述式		29.8	27.7
2(1)	トマトを7個買うとき、最も安くなる買い方を選び、そのときの代金を書く		5年		4年	短答式		66.6	64.8
2(2)	20%増量した商品の内容量が480mLであるとき、増量前の内容量を求める式と答えを書く				5年	短答式		16.0	13.1
2(3)	示された割引後の値段の求め方の中から誤りを見だし、正しい求め方と答えを書く				5年	記述式		51.0	51.0
3(1)	周の長さが24mの正三角形を巻き尺でつくるために、それぞれこの目盛りのところを持てばよいかを書く	3年 5年		3年		短答式		35.8	32.5
3(2)	合同な二つの三角形を巻き尺でつくったときに、⑦の角が30°になるわけを書く			3年 5年		記述式		48.6	49.1
4(1)	四つの数を四捨五入して、千の位までのおよその数に表し、それらの数の和を求める式と答えを書く	4年				短答式		51.3	52.6
4(2)	切り上げて計算した結果が10000であることから分かることを選ぶ	4年				選択式		66.9	62.0
4(3)	目標に達するには、12月に3000個のキャップを集めればよいわけを書く	4年				記述式		24.9	22.3
5(1)	示された図において、分割された二つの図形の面積が等しくなるわけを書く		4年 5年	2,4,5年		記述式		14.0	12.5
5(2)	示された図形の色がついた部分の面積を求める		4年 5年	2,4,5年		短答式		49.3	47.8

※ 全国の前答率は、公立学校の結果です。
 ※ 学年はその内容を学習する学年です。
 ※ 網掛けは、さいたま市の平均前答率が全国を下回っている設問です。

◇: 成果[対象となる設問] ◆: 課題[対象となる設問]

【結果概要】

- ◇平行四辺形を構成することができる辺の組合せを正しく判断することは相当数の児童ができています。[B1(1)]
- ◆示された情報から基準量を求める場面ととらえ、比較量と割合から基準量を求めることに課題がある。[B2(2)]
- ◆正三角形の性質や合同な三角形の性質を基に、角の大きさが30°になる理由を記述することに課題がある。[B3(2)]
- ◆位に正しく着目し、四捨五入して千の位までのおよその数にして計算することに課題がある。[B4(1)]
- ◆長方形の面積を2等分する考えを基に、分割された二つの図形の面積が等しくなる理由を記述することに課題がある。[B5(1)]

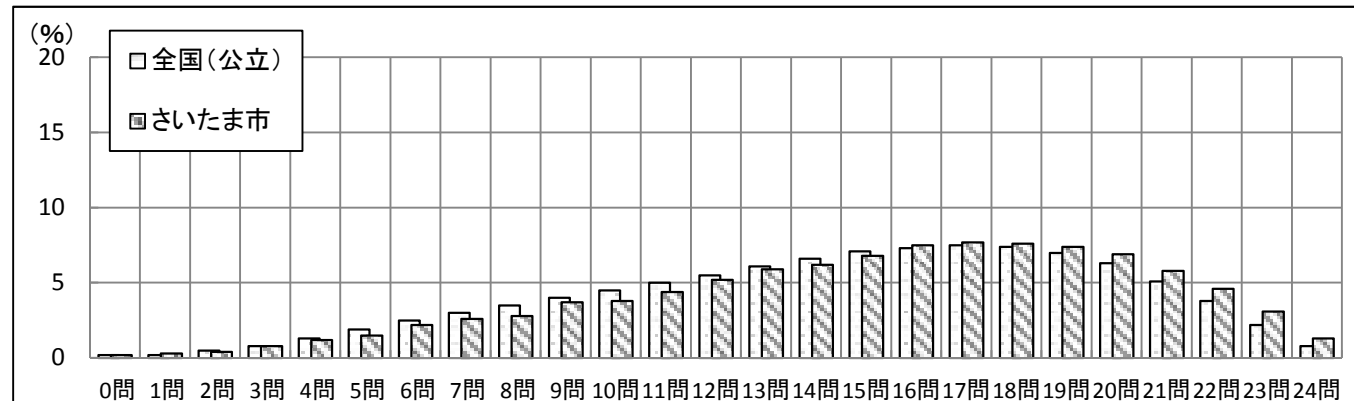
【指導のポイント】

- 比較量を求める場面の考え方を基にして、数量の関係を把握できるようにすることが大切である。図や数直線に表すことなどを通して、数量の関係を整理してとらえた上で、基準量を求めることができるようにすることが大切である。
- 日常生活の事象を丁寧に観察することを通して、主体的に問題を整理し、その解決のために既習の基本図形の性質を活用して、根拠を明確にして判断したり、理由を述べたりすることができるようにすることが大切である。
- 日常生活の場面で、見積りの目的を明確にして、どのような概数を用いることが適当かを考えたり、見積りの結果を根拠にするとどのようなことが言えるのかを解釈・判断したりできるようにすることが大切である。
- 示された考えを基に、的確に表現するためには、考えや理由などの根拠を明らかにして、論理的に考えたり説明したりすることが大切である。

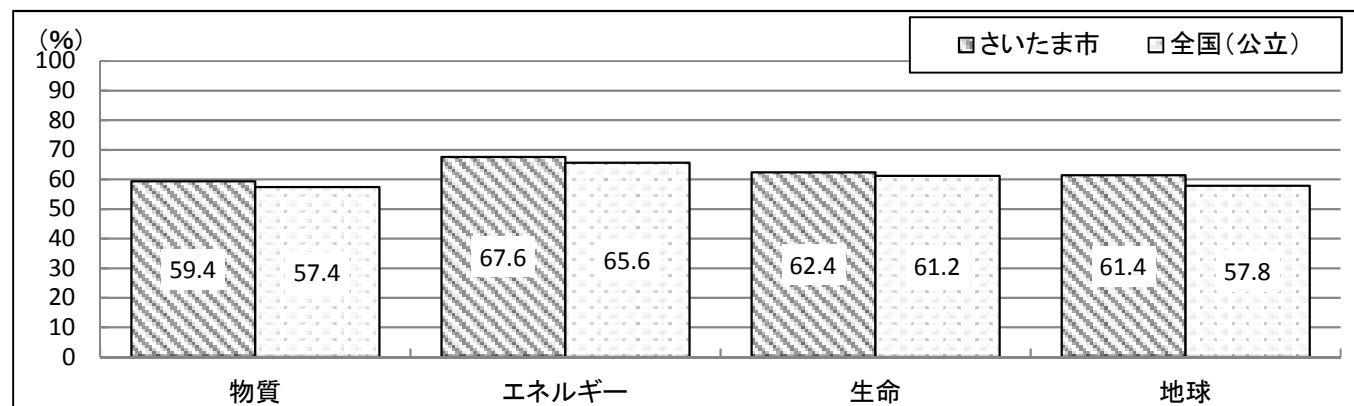
1 全体の正答率（％）

さいたま市	全国（公立）
62.9	60.8

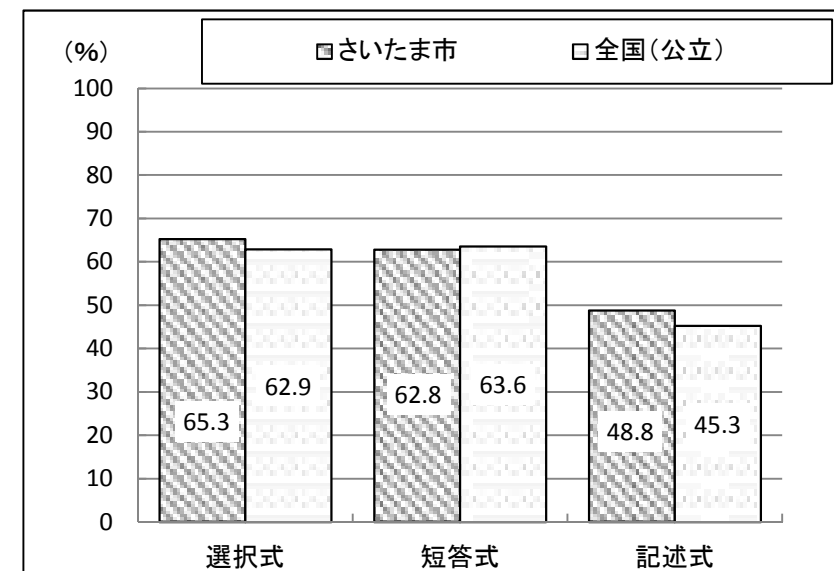
2 正答数分布（正答数ごとの児童の割合）



3 領域別正答率



4 問題形式別正答率



5 設問別平均正答率等

設問 番号	設問の概要	学習指導要領の区分等				問題 形式	正答率(%)	
		A 区分		B 区分			市	全国
		物質	エネルギー	生命	地球			
1 (1)	振り子が1往復する時間を変える要因を調べるため適切に条件を変えた振り子を選ぶ		5 年			選択式	79.3	77.6
1 (2)	振り子時計の進み方を調整する内容を選ぶ		5 年			選択式	63.5	61.2
1 (3)	振り子時計の軸に用いる適切な金属を選び、選んだわけを書く	4 年	5 年			記述式	65.7	62.8
1 (4)	電磁石と磁石が退け合うようにするための極の組み合わせを選ぶ		3 年 5 年			選択式	54.8	53.2
1 (5) ア	電磁石の働きを利用した振り子が左右に等しく振れる導線の巻き方や		4 年 5 年			選択式	73.5	72.7
1 (5) イ	乾電池のつなぎ方について、当てはまるものを選ぶ		4 年 5 年			選択式	69.0	66.2
2 (1)	メダカのめすとおすを見分けるための観察する部分を選ぶ			5 年		選択式	71.3	78.0
2 (2) よし子	生物の成長に必要な養分のとり方について、仲間分けした観点を選ぶ			5 年		選択式	78.6	76.3
2 (2) ひろし				5 年		選択式	72.0	69.0
2 (3)	示された器具（顕微鏡）の名称を書く			5 年		短答式	60.3	61.6
2 (4)	顕微鏡の適切な操作方法を選ぶ			5 年		選択式	41.9	37.9
2 (5)	インゲンマメとヒマワリの成長の様子や日光の当たり方から、適した栽培場所を選び、選んだわけを書く			5 年	3 年	記述式	50.3	44.2
3 (1)	水蒸気の状態の説明として当てはまるものを選ぶ	4 年				選択式	84.5	81.9
3 (2)	水の温まり方の予想を基に、温度計が示す温度が高くなる順番を選ぶ	4 年				選択式	54.7	54.0
3 (3)	水の温まり方について、実験結果から考え直した内容を選ぶ	4 年				選択式	52.9	51.7
3 (4)	示された器具（メスシリンダー）の名称を書く	5 年				短答式	70.5	70.7
3 (5)	メスシリンダーで一定量の水をはかり取る適切な扱い方を選ぶ	5 年				選択式	57.0	51.7
3 (6)	水の温度と砂糖が水に溶ける量との関係のグラフから、水の温度が下がったときに出てくる砂糖の量を選び、選んだわけを書く	5 年				記述式	30.5	28.9
4 (1)	方位についての情報から、観察している方位を選ぶ				4 年	選択式	45.0	41.0
4 (2)	夕方にみられる月の形と場所を選ぶ				4 年	選択式	59.6	56.1
4 (3)	星座の動きを捉えるために必要な記載事項を選ぶ				4 年	選択式	61.1	55.3
4 (4)	観察した星座や雲の動きを選ぶ				4 年	選択式	69.6	65.0
4 (5)	水が水蒸気になる現象について、その名称を書く				4 年	短答式	57.6	58.5
4 (6)	地面に水をまいたときの地面の様子と温度変化について、実験結果から言えることを選ぶ				4 年	選択式	86.5	84.2

※ 全国の上答率は、公立学校の結果です。

※ 学年はその内容を学習する学年です。

※ 網掛けは、さいたま市の平均正答率が全国を下回っている設問です。

◇：成果[対象となる設問] ◆：課題[対象となる設問]

【結果概要】

◇水蒸気は水が気体になったものであることを理解することについては、相当数の児童ができています。[3(1)]

◇打ち水の効果について、グラフを基に地面の様子と気温の変化を関係付けながら考察して分析することについては、相当数の児童ができています。[4(6)]

◆顕微鏡の適切な操作技能に関する知識の定着に課題がある。[2(4)]

◆予想が一致した場合に得られる結果を見通して実験を構想したり、実験結果を基に自分の考えを改善したりすることに課題がある。[3(2)(3)]

◆温度の変化に伴って変わる析出する量について、グラフを基に考察して分析することに課題がある。[3(6)]

【指導のポイント】

○顕微鏡の各部位の役割や適切な操作方法を理解し、対象や目的に応じて操作できる技能を習得させることが大切である。

○水の温まり方についての問題に対する予想をもち、図や言葉を使って一人ひとりが表現できるよう指導することが大切である。また、結果の見通しを基に実験方法を改善できるようにすることが大切である。

○析出する砂糖の量について、水に溶ける量の変化とその要因となる温度とを関係付けて考えさせることが大切である。その際、析出する様子などをじっくりと観察する場面を設定し、実感を伴って理解できるようにすることが大切である。